



## 原油が続落、米在庫が予想より減らず 金は横ばい圏

29日朝方の国内商品先物市場で、原油は続落して取引を始めた。中心限月の2025年1月物は1キロリットル6万6200円と前日の清算値に比べ1020円安い水準で寄り付いた。米エネルギー情報局（EIA）が28日発表した週間の原油在庫統計で、原油在庫は前週から市場予想ほど減らなかった。想定より需要が鈍いとの見方を背景に28日のニューヨーク原油先物相場が下落したことで、国内原油先物に売りが出た。根強い中国経済の減速懸念も相場の重荷になった。

金は横ばい圏で推移している。中心限月の25年8月物は1グラム1万1681円と前日の清算値を11円下回る水準で取引を始め、その後上昇に転じている。日本時間29日朝方の取引でニューヨーク金先物相場が上昇しており、国内金先物を買う動きにつながった。主要消費国のインドでは秋のヒンズー教の大祭などを控え、宝飾品需要が伸びるとの思惑も国内金先物相場を支えている。

白金は下落している。中心限月の25年8月物は1グラム4341円と前日の清算値を71円下回る水準で寄り付いた。



2024年 8月 30日 担当 虻川

## 円相場、下落し 144 円台後半 良好な米景気指標受け

30日早朝の東京外国為替市場で、円相場は下落している。8時30分時点は1ドル=144円96～99銭と前日17時時点と比べて25銭の円安・ドル高だった。29日発表の米経済指標が米景気の底堅さを示す内容となったことで同日の米長期金利が上昇し、日米の金利差縮小一服を意識した円売り・ドル買いにつながった。

29日発表の2024年4～6月期の米国内総生産（GDP）の改定値は前期比年率3.0%増と、速報値（2.8%増）から上方修正となった。週間の新規失業保険申請件数は前の週から減少するなど米景気と米労働市場の底堅さが意識され、円売り・ドル買いが増えた。

総務省が30日朝に発表した8月の東京都区部・消費者物価指数（CPI）は生鮮食品を除く総合の伸び率は2.4%上昇と、7月の2.2%上昇から拡大した。今のところ相場への影響は限られている。円は対ユーロで上昇している。8時30分時点は1ユーロ=160円60～65銭と、同44銭の円高・ユーロ安だった。29日発表の8月のドイツの物価指標で前年同月比の上昇率が前月から鈍化した。欧州中央銀行（ECB）が追加利下げに動きやすくなるとの思惑から円やドルに対するユーロ売りにつながった。

ユーロは対ドルでも下落し、8時30分時点は1ユーロ=1.1079～80ドルと同0.0049ドルのユーロ安・ドル高だった。



2024年 8月 30日 担当 虻川

## 再エネ由来合成燃料を活用せよ 平野茂樹氏

京都大学大学院非常勤講師

JR 西日本は 23 日、9 月 3 日から山口県内を走る岩徳線の一部列車でバイオディーゼル燃料を 100% 使う走行試験を始めると発表した。営業運転では国内初の取り組みという。燃料は伊藤忠エネクスが供給し、2025 年度以降の本格導入に向けて車両性能への影響を確かめる。燃料については実質的に二酸化炭素の排出がゼロとなるカーボンニュートラルにつなげる。

岩徳線は徳山駅（山口県周南市）から岩国駅（同県岩国市）を通る路線。バイオ燃料は新山口駅（山口市）近くの車両基地で供給するため、試験車両は山陽本線の一部も走行する。走行試験は 9 月 3 日から 25 年 1 月 31 日まで実施。試験中にはバイオ燃料を 4 万 7000 トン使う予定で、軽油を使った場合に比べて 120 トンの CO2 を削減できる見込みだ。

今回用いるバイオ燃料は石油と同じく水素精製しており、軽油と同じ供給設備やエンジンで利用できる。油料理に使う廃食油や食品加工の過程で出る植物油からつくるため、生成過程を考慮するとカーボンニュートラルになるという。伊藤忠エネクスがフィンランドの再生原料大手ネステから調達する。

日経新聞



2024年 8月 30日 担当 虻川

## ユーグレナ、藻類由来のバイオ原料を研究 ペトロナスと

ユーグレナはマレーシアの石油大手ペトロナスとバイオ燃料に関する共同研究を始めた。ミドリムシなど微細藻類の大量培養や精製技術を確立し、バイオ燃料の大量生産につなげる。両社がもつ知見や技術を組み合わせ、バイオ燃料のコスト引き下げをめざす。

ペトロナスの子会社と組み、研究開発は主にマレーシアで実施する。微細藻類の培養や油脂を搾る技術などのテーマに取り組む。抽出した後の副産物は飼料などに再利用することも検討する。研究期間は2026年末までで、25年末時点の成果を踏まえてバイオ燃料の試験製造を検討する。

バイオ燃料は化石燃料由来の燃料と比べて二酸化炭素（CO2）排出量を抑えることができる。現在は廃食用油由来の燃料が主だが、供給量には限りがある。ユーグレナの藻類の培養技術やペトロナスの精製技術などを組み合わせ、藻類由来の燃料コストを引き下げる。

ユーグレナは7月にペトロナスやイタリアのエネルギー大手エニとマレーシアのバイオ燃料プラントへの投資を決めた。生産能力は年間約72.5万キロリットル相当で、28年後半までに運転を始める。当面は原料に廃食用油を使うが、ユーグレナは将来ミドリムシの活用も視野に入れ、年間10万トン規模の原料生産を目指す。



# ウメモト インフォメーション



2024年 8月 30日 担当 虻川

## ヨーカ堂、都内全店で廃食油回収 SAF やせっけん原料に

イトーヨーカ堂は 29 日、家庭で使った食用油の回収を 9 月から都内にあるイトーヨーカドー 24 店全てで実施すると発表した。当面は回収した廃食油をせっけんなどで再利用する。ENEOS などと連携し、将来的には再生航空燃料（SAF）の原料にも使う。国内で年間 10 万トンに上る家庭の廃食油の有効活用を進めていく。

外食産業や食品製造業など事業系から出る廃食油は年 40 万トンあり、大部分は飼料原料や工業原料などに再利用されている。一方で、家庭で使った食用油は回収の仕組みが整っておらず、多くが可燃ゴミで廃棄されているのが現状だ。

ヨーカ堂は 2023 年 2 月から、家庭で使った食用油の回収を一部店舗で順次始めた。今回は対象店舗をイトーヨーカドーの都内全店に拡大し、25 年度までにヨークを含めた 217 店全店で行う。同時期までに 23 年の開始からの累計で 25 トンの回収を目指す。

各店舗のサービスカウンターで無償提供する専用ボトルで集めた廃食油は、廃油収集や精製を手掛ける吉川油脂（栃木県佐野市）がせっけんやインク溶剤などで活用する。

将来的には SAF の原料として再利用する。SAF は廃食油などからつくり、原料調達から消費までの過程で既存のジェット燃料より二酸化炭素（CO2）排出量を約 8 割減らせる。ENEOS は石

油精製を止めた和歌山製造所（和歌山県有田市）で、スーパーなどで回収した廃食油も使い  
27年にSAFの生産を始める予定だ。

ヨーカ堂の小山遊子総括マネジャーは29日開いた説明会で、「消費者にはスーパーへの買い物つ  
いでに、（リサイクルに向け）トレーやペットボトルを持っていく文化が定着している」と説明。家庭で  
使った食用油についても回収率を高める考えを示した。

**日経新聞**